

令和6年7月18日

浜田市議会議長 笹 田 卓 様

議員名 芦 谷 英 夫

## 調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

### 記

- 1、視 察 先                    松江市（佐陀神社 舞殿）
- 2、視 察 事 項                特別公開「佐陀神能 3 演目」
- 3、視察の目的                石見神楽伝承内容の検討が行われており、浜田市として石見  
神楽の振興についてより広い視点での検討が必要
- 4、期間（移動日含む） 令和6年7月13日（土）17時～20時40分
- 5、経                    費                    鑑賞料2,000円   交通費7,740円（JR松江往復）  
  
7,220円（タクシー佐陀神社往復）、宿泊料3,600円  
  
駐車料400円（浜田駅）   計21,460
- 6、視察のポイント・議員活動や市政への反映など  
  
詳細は視察内容に譲るが、市の検討専門委員会では舞う側の議  
論となっており、石見・出雲・隠岐の神楽の関係性、観る側の  
視点、県政や他市町も含めたより広域的視点が必要
- 7、視 察 内 容                別紙のとおり



## 佐太神社 特別公開「佐陀神能」視察

令和6年7月18日

- 1 日 時 令和6年7月13日（土）18時～20時40分
- 2 場 所 松江市（佐陀神社 舞殿）
- 3 特別公開 「佐陀神能 3演目」
- 4 概 要
  - ① 令和6年特別公開「佐陀神能」として開催されたもので、演じられたのは、「清目」斎場を清める舞、「八重垣」素戔鳴尊の八岐大蛇退治を題材とした演目、「山神祭」天照大御神が御隠れになった磐戸の前で湯立神事を行う為に必要な櫛を探す物語、の3演目。
  - ② 特別公開は、5月にも行われ9月にも予定されており、この日7月13日の入場者は約90人、5月は約95人で満席となったとのこと。特別公開は5年度も5月、7月、9月の年3回行われ来年度も同様に開催する予定。
  - ③ 佐陀神能は、神事の式次第から発達した採物舞の「七座神事」、神法楽としての式三馬番」、神話や神様の功績などを題材とした「神能」の三部構成となっている。昭和51年国の重要無形民俗文化財に指定され、平成23年にユネスコの無形文化遺産に登録された。
  - ④ 島根県には出雲神楽、隠岐神楽、石見神楽の三神楽があり、佐陀神能は400年の歴史があり出雲神楽の本流とされ、出雲地方各地に伝播し進化し変化してきており、出雲神楽から大元神楽へ、石見神楽、広島神楽、備中神楽へと相互に伝播したとされている。
  - ⑤ 島根県には約250の神楽団体があるとされ、石見神楽の団体が約130団体あり、出雲神楽、隠岐神楽で合わせて約120団体あることになるが、出雲神楽は約50団体との資料もある。
- 5 所 感
  - ① このたびの特別公開の佐陀神能など出雲神楽は、厳かな舞でより神話や歴史を感じられ神楽文化の基本にあることが伺える。また石見神楽に六調子、八調子があり大元神楽を含め、その特徴や違いに着目されるが、出雲神楽もそのような伝播の繰り返しから、その土地独自に発展してきたことがみてとれる。
  - ② 島根県は「神話の国」「神楽」などを県政観光の柱としており、出雲、隠岐、石見の三神楽の歴史性や伝統文化などの調査研究を行い、観光としての神楽をどう打ち出すか、どう県外に発信するか、そのため県政として各市町を包含した連携した取り組みが必要である。
  - ③ 石見神楽は、大きく分けると石東（大田市）、邑智、石央（江津市・浜田市）、益田以西に分けられ、出雲に接する大田は出雲神楽の影響が色濃く見られ、邑智の大元神楽が演じられる地域もあり、出雲・大元・石見の神楽のそれぞれが混ざり伝わっている。
  - ④ 浜田市は「石見神楽を創り出したまち」を自認し、石見神楽伝承内容の検討が行われ、専門委員会は、舞う側である社中、神楽を支える衣裳、面、蛇胴などからの視点となり、石見神楽の広域性、伝播した時代の変遷などより広い視野からの検討が必要である。
  - ⑤ 石見神楽の観る側からの視点、人を呼び寄せるためどう発信するか、地域ごとの社中はどうあるべきか、後継者の育成、子ども神楽の振興や教育への採り入れ、神楽産業技術者の伝承、神楽文化遺産の保存と伝承などの課題が残されている。ー以上